

オリンピックと科学技術がスポーツを変えた

# 近代スポーツの変遷と科学技術

日常生活の中には野球やサッカーなど多くのスポーツがとけこんでいる。私たちが知るスポーツはこれまでどのようなように発展し、科学技術の進歩はどのようにスポーツを変えてきたのか？  
スポーツ社会学が専門の高尾将幸さんに聞いた。

東海大学体育学部講師

## 高尾将幸

●たかお・まさゆき 1980年長崎県生まれ。筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科、単位取得退学。博士(体育科学)。専門はスポーツ社会学。著書に『「健康」語りと日本社会』(新評論)、『Legacies and Mega Events』(Routledge社、共著)などがある。

### スポーツの始まり

——スポーツとはいった頃から始まったものなのでしょうか？

スポーツの始まりがいつか？という問いは、スポーツ史の視点から見た場合と、スポーツ社会学の視点から見た場合とで定義が変わり、少し違う答えになります。

スポーツ史の視点では、まず、古

代ギリシャで開催されていた競技がスポーツの始まりであると考えます。古代ギリシャでは、都市ごとにポリスという都市国家を形成していましたが、ポリス間の争いが絶えなかった。そうしたなかで四年に一度の古代オリンピックが始まりました。各ポリスからは鍛え抜かれた戦士たちが参加して、名誉をかけて競い合っ

たようです。

しかし、後に登場するローマ帝国の時代になると、観る競技へと変わっていく、次第に刺激と残忍さが求められるようになりました。映画などにもあった、みなさんご存知の「グラディエーター(剣闘士)」は、このころに登場しました。グラディエーターたちは、戦争の捕虜や奴隷、罪人などで、人間同士や人間と猛獣

との命をかけた戦いを繰り広げました。グラディエーターたちは生き残るために戦い、ローマ市民がそれを観戦するというシヨリ的な要素があったようです。

——命をかけた戦いがスポーツといえるのでしょうか？

そうですね。古代ギリシャやローマの競技者たちは、スポーツという概念をまったく持っていなかったと思います。スポーツというよりは、現実の戦争の模倣のようなイメージだったのではないのでしょうか。グラディエーターに至っては、負け＝死ということになりますから、スポーツとは考えにくいと思います。

スポーツ史の視点では、そういったことも含めてスポーツの始まりととらえることが多いと思います。しかし一方、スポーツ社会学では、きちんとしたルールがないこれらの競

技をスポーツとはとらえていません。

——スポーツ社会学から見たスポーツの始まりとはいった頃でしょうか？

スポーツ社会学の視点から見ると、十八世紀から十九世紀ごろにイギリスで始まった身体的なゲーム、競技がスポーツの始まりだと考えています。大きなポイントは、しっかりと書かれたルールが存在しているかどうかということになります。

ヨーロッパでは、中世の時代から都市部に住む人たちが、いろいろなボールゲームを楽しんでいました。フットボールやゴルフ、テニスなどの原型もこのころに始まったといわれています。なかでも、フットボールはとても人気がありました。

後にラグビーやサッカーにつながるフットボールですが、当時は、現在のようにはちゃんと決まったルールがなかったので、同じフットボール

でも地域によってさまざまなスタイルで行われていました。また当時のフットボールには、宗教的な意味やお祭的な要素もあったようです。たとえば、キリスト教の四旬節(慎ましい生活を強いられる期間)の前に行われるお祭りのようなもので、特に決まったルールはなく、街全体がフィールドとなつて、一日がかりで最終的に相手のゴールにたどり着いたほうが勝ちというようなものもあったようです。しっかりとしたルールがなかったため、さうとう激しい戦いだつたと思いますよ(笑)。

このような民衆のフットボールは、ルールがなく無規律で暴力的になりがちであったため、社会秩序を乱すものとみなされて、たびたび禁止されてきました。

——現在のラグビーやサッカーとは、だいぶイメージが違いますね。